

磯焼け実態調査

(予備調査)

堀 玲子

1. 研究目的

近年、環境の変化に伴って、海藻類が減少・消失し、その状態がそのまま継続する「磯焼け」が全国的に問題となっている。そこで、本県における磯焼けの発生状況を把握するため調査を実施する。今年度は予備調査として県東部沿岸域の調査を行う。

2. 研究方法

(1) 坪刈り調査

松江市鹿島町地先において、採貝漁業者からの聞き取りにより、藻場の減少が感じられる海域とそうでない海域に沿岸から沖に向けて50m ラインを1ラインずつ設け、ライン上に方形枠(50×50cm)を10m 毎に6個設置して坪刈り調査を実施し、繁茂状況を調査した。

(2) 聞き取り調査

県東部の採貝漁業者等から、沿岸漁場における近年の海藻の繁茂状況及び磯焼け発生の有無について聞き取りを行った。

3. 研究結果及び考察

(1) 坪刈り調査

表に対照ライン A 及び藻場減少ライン B における調査結果を示した。藻場が減少しているとされる海域においてもホンダワラ類の繁茂が認められ、磯焼けの状況にはなかった。

表 坪刈り調査結果

単位 : kg/0.25m²

	ライン	クロメ	ホンダワラ類	その他褐藻類	緑藻類	紅藻類	計
H17.6.24	A	2.87	0.30	0.45	0.02	0.01	3.64
	B	0.26	5.00	0.14	0.00	0.03	5.44
H17.9.13	A	2.41	1.04	0.01	0.00	0.05	3.51
	B	0.05	1.24	0.03	0.00	0.03	1.36
H18.1.13	A	0.81	0.78	0.00	0.00	0.00	1.60
	B	0.11	2.18	0.00	0.00	0.00	2.29
H18.3.24	A	0.66	0.72	0.14	0.00	0.03	1.55
	B	0.59	1.78	0.01	0.01	0.01	2.39

A : 対照ライン B : 藻場減少ライン

(2) 聞き取り調査

県東部においては、年変動による藻場の多少は見られるものの、磯焼けの発生は見られていない。また、漁業者によるヤツタモクの藻場造成を試験的に実施している海域では、藻場が回復する傾向が見られている。

以上の結果から、漁業に深刻な影響を及ぼすような大規模な磯焼けの発生は認められないが、引き続き磯焼け状況を把握する必要がある。

4. 研究成果

平成18年3月に鹿島浅海分場で開催された平成17年度中国五県公設試験研究期間共同研究において、調査結果について報告した。